

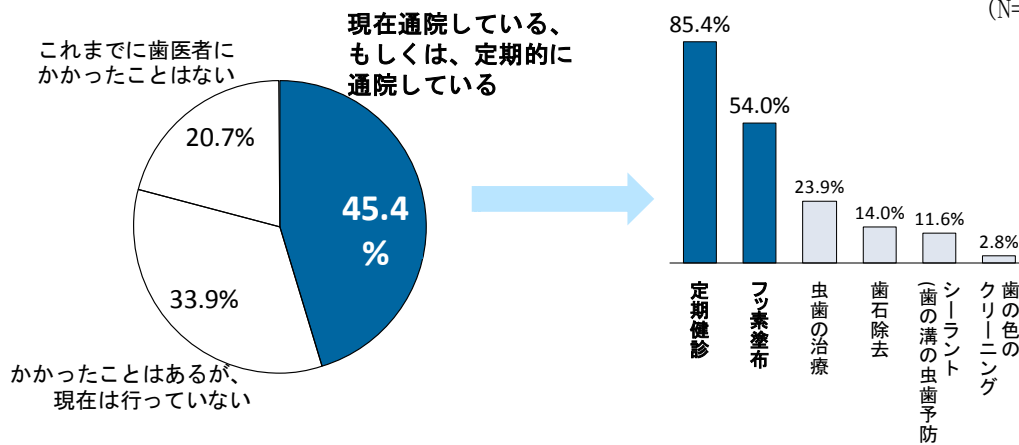
日本の子どものオーラルケアの状況

■日本の子どもの虫歯は急激に減少中。予防のための歯科通院が常識に

厚生労働省が実施している「歯科疾患実態調査」で、昭和 62 年から最新の平成 23 年における「う歯（一般的には虫歯）」を持つ子どもの年次推移をみると、虫歯（治療済みを含む）を持つ子どもの割合は、この 24 年間でおよそ半分になっています。日本の子どもの虫歯が急激に減少していることがわかります。

子どもの虫歯が減少している背景として、「子どもの歯に関する保護者の意識の高まり」が挙げられます。フィリップスの調査によると*、子どもの歯科への通院経験について、約半数（45.4%）の保護者が「現在通院している、もしくは、定期的に通院している」と回答していますが、通院をしていると回答した保護者に歯科への通院目的を聞くと定期検診のためが8割以上（85.4%）、「フッ素塗布」が半数以上（54.0%）と、予防目的の回答が「虫歯の治療」（23.9%）を大きく上回っており、保護者の子どもの歯に関する予防意識が高まっていることがうかがえます。

図1 子どもの歯科への通院経験 (N=7,424) 図2 歯科への通院目的 [歯科通院者ベース] (MA) (N=3,369)



■保護者は子どもの歯磨きに多くの悩みや不安を抱えている

上記のように、子どもの歯に関する保護者の意識が高まっていますが、同時に、保護者は子どもの歯磨きに関して多くの悩みや不安を抱えているという状況が明らかになっています*。「お子様のひとり磨きで、困っていること、悩んでいること」について、6割以上（64.3%）が「正しく歯磨きできているか不安」と回答しており、それ以外にも多くの保護者の方が「磨き残しがある」「集中して磨いていない」「『歯磨きしなさい』と言わないと歯磨きしない」といった悩みを抱えていることがわかりました。

表1 子どものひとり磨きで困っていること／悩んでいること (MA) (N=2,396)

1位	正しく歯磨きできているか不安	64.3%
2位	磨き残しがある	49.3%
3位	集中して磨いていない	42.9%
4位	「しなさい」と言わないとしない	40.8%
5位	同じ所ばかり磨いている	35.7%

* 全国の3～12歳の子どものもつ母親へのインターネット調査/2016年フィリップス社調べ

歯科衛生士が考える子どものオーラルケア

小児歯科を専門としている歯科衛生士 青木 薫先生に子どものオーラルケアの問題点や重要性についてお話を聞きました。

■子どものオーラルケアで問題視されている点

子どものオーラルケアの問題点は、以下の3点が挙げられます。

子どものオーラルケアの問題点

1. 自分から磨かない（関心がなく、面倒に感じている）
2. きれいに磨けない（生えかわりの交換期で磨きにくい、手技が未熟）
3. 磨く時間がない（朝の登校前、塾通い、受験などに忙しく、ないがしろにしてしまう）



歯科衛生士
青木 薫先生

■歯科衛生士が考える子どもの頃からのケアの重要性

子ども時代からしっかりとオーラルケアを行い、虫歯を防ぎ、健全な歯並びを作ることは、大人になってから歯を失わないためにも非常に重要です。そのためには、小学生の頃から歯と口の健康に関する「気づき」を与え、健康意識を育むことが大切です。

<プロフィール>

- ・新東京歯科衛生士学校卒業
- ・都内開業医 25年勤務
- ・新東京歯科衛生士学校 非常勤講師

<免許・資格>

- ・日本歯周病学会認定歯科衛生士取得
- ・日本医療機器学会第2種滅菌技士

■歯科衛生士 青木 薫先生が「ソニックケア キッズ」を推奨する理由

子どもが正しいオーラルケアを実践するために、ソニックケア キッズを使用することのメリットは、大きく分けて3点あると考えています。

簡単

シンプルな機能で子どもにも使いやすく、またアプリと連動して歯みがきを誘導してお口全体を磨けます。保護者の仕上げ磨きにも最適です。

効果的

ブラシを当てるだけでしっかりプラークを除去できるソニックケアの「音波水流」は、子ども用製品でも実感いただけます。歯磨き後のツルツルする感覚を実感することが正しい歯磨きの習慣化には大切です。

楽しい

子どもが喜ぶ楽しいアプリと連動し、記録が残ることで子どもの達成感をサポートします。キャラクターを育成することでモチベーションアップも図れます。